

外観が美しく皮ごと食べられるブドウ新品种「シャインマスカット」

〔要約〕ブドウ新品种「シャインマスカット」は、果皮色が黄緑色の外観の優れたブドウで、マスカット香があり肉質が硬く、食味も良好で皮ごと食べられる。裂果性は少なく、多収で栽培しやすい。また、ジベレリン処理による無核栽培に適している。

茨城県農業総合センター園芸研究所

成果区分

普及（普及）

1. 背景・ねらい

本県のブドウ経営は、観光直売型で営まれ、「巨峰」が主力品種となっているが、消費者ニーズが多様化し、「巨峰」とは異なる食味の品種や、食べやすさから種なしブドウに対する需要も大きくなってきている。そこで、農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所において育成されたブドウ新品种「シャインマスカット」の特性について検討した。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 樹勢は強く、収穫期は「巨峰」よりやや遅い（表 1）。果皮は黄緑色で裂果性は少なくマスカット香があり、肉質は硬く食味良好で巨峰より多収である（表 1、図 1、2）。
- 2) ジベレリン処理を行うことによって種無しになり、果粒肥大が促進されて大粒となる（表 2）。種無しにすることによって皮ごと食べやすくなる。ジベレリン処理を行っても着粒は密になりにくく、摘粒に労力がかからない。
- 3) 無核化は、満開期と満開 10～15 日後にジベレリン 25ppm 処理（花（果）房浸漬）を行う。ジベレリン処理のみでは種子が残ることがあるため、ストレプトマイシン 200ppm を満開予定日の 14 日前～開花始期に散布、又は満開期のジベレリン処理に加用する（表 2）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 新品种「シャインマスカット」は、「安芸津 21 号」（「スチューベン」×「マスカット・オブ・アレキサンドリア」）に「白南」（「カッタクルガン」×「甲斐路」）を交雑して育成され、平成 18 年 3 月に品種登録された欧州系 2 倍体品種である。
- 2) 雨よけ栽培が望ましいが、耐病性は「巨峰」と同等で露地栽培も可能である。
- 3) 縮果症が発生することがあるため、急激な土壌水分の変動の変動が起こらないよう適宜灌水等を行う。
- 4) 樹勢の強さを利用し果粒肥大を促進するためには、摘心等新梢管理が必要である。整枝剪定は、管理作業がしやすい短梢剪定平行整枝が適している。
- 5) 今回供試した樹はウイルス（GRSPaV）を保毒しており、試験成績はこの条件のもとでの成績であるが、これまでステムピッチング・樹勢低下等の症状は出ていない。
- 6) 平成 19 年には、苗木生産者へウイルスフリー化された穂木の配布が始まる予定である。

4. 具体的データ

表 1. 「シャインマスカット」品種特性¹⁾

調査年	樹齢 (年生)	発芽期 (月/日)	開花期 (月/日)	収穫期 (月/日)	収量 (kg/m ²)	果房重 (g)	1粒重 (g)	縮果症 粒率 (%)	裂果 粒率 (%)	糖度 (brix%)	酸度 (%)
平成16年	7	4/17	6/4	9/24	1.7	574	13.9	18.8	0.2	19.3	0.29
平成17年	8	4/24	6/13	10/6	1.7	763	14.3	6.5	0.0	18.6	0.26
平成18年	9	4/20	6/11	9/21	1.9	581	14.3	57.9 ³⁾	0.5	18.6	0.29
巨峰 ²⁾		4/22	6/9	9/20	0.9	332	11.7			18.3	0.41

注1) 雨よけ栽培・ジベレリン処理

2) 露地栽培・平成16～18年の平均 (18～20年生)

3) 軽微な縮果症もカウント



図 1. 「シャインマスカット」
(ジベレリン処理)

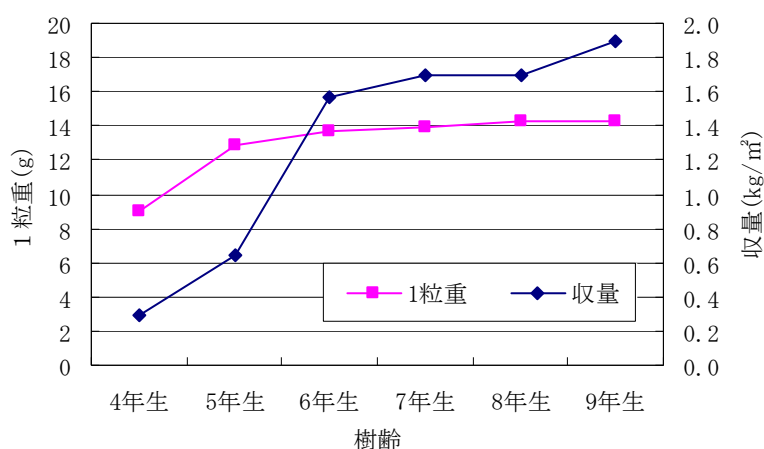


図 2. 「シャインマスカット」1粒重及び収量の推移
(平成13～18年・ジベレリン処理)

表 2. 「シャインマスカット」のジベレリン処理が果実品質に及ぼす影響

調査年	樹齢 (年生)	ジベレリン 処理	果房重 (g)	1粒重 (g)	含核数 (個/粒)	縮果症 粒率 (%)	裂果 粒率 (%)	糖度 (brix%)	酸度 (%)
平成14年	5	処理	713	12.9	1.5	12.4	3.5	17.2	0.30
		無処理	366	9.3	1.7	0.0	0.5	16.0	0.51
平成15年	6	処理	694	13.7	0.0	18.9	0.3	17.6	0.28
		無処理	429	10.2	1.5	5.8	0.1	17.3	0.38

注) ジベレリン処理は、H14年：満開期・満開10日後に GA25ppm 花(果)房浸漬

H15年：満開15日前にストレプトマイシン 200ppm 散布、満開期・満開10日後に GA25ppm 花(果)房浸漬

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

果樹推奨品種決定と生態収量予測・平成11年度～・果樹研究室